

ときめき インタビュー



…プロフィール…

1985年8月10日越谷市生まれ。荻島小（越谷PCキッカーズ）、西中（越谷FCジュニアユース）、早稲田実業学校高等部、早稲田大学を経て2008年1月、湘南ベルマーレ入団（当時J2、2009年にJ1昇格）。早稲田大学時代、2部リーグから1部リーグへの昇格と、1部リーグ準優勝、2007年全日本大学選手権（インカレ）優勝に貢献。越谷FC時代の同期に菊地光将選手／川崎フロンターレ（越谷市出身）、大学時代の同期に兵藤慎剛／横浜マリノス、鈴木修人／鹿島アントラーズなどがある。

サッカーとの出会いと

初めての挫折

「サッカーを始めたのは5歳のときです。でも、その前にはもうボールをけて遊んでいました。いつの間にか好きになっていったって感じです」とサッカーとの出会いを語る島村選手。

そして、7歳のときに入団したチームが、当時北越谷地区で結成された越谷PCキッカーズです。

「キャプテンになってみんなを引っ張っていました。弱いチームだったんですけど、サッカーが楽しくて、楽しくて」。

中学生になり越谷FCのジュニアユースへ。ここで、現在も交友の深い菊地光将選手（川崎フロンターレ。越谷市出身）と出会いました。

「そのころ、チームの成績が振るわず、自分の力を信じていることができなくなっていました。初めての挫折でしたね」。

Jリーグやワールドカップの盛り上がりよきに、勉強に打ち込むようになりました。そして、早稲田実業学校高等部に入学。プロは遠い夢になっていました。

見えてきたプロへの道、

そしてけが：

とはいえ、サッカーを捨ててしまえるはずもなく、島村選手はサッカー部へ入部。

「入ってみたら全国レベルの選手が多くて驚きました。けどいっしょにプレーするうちに、もしかして自分も同じレベルかもって思えたんです」。

自信を回復した島村選手は全国選手権を目指します。ポジションは子どもころから続けてきたフォワード（主に攻撃を受け持つ選手）。結果は都ベスト8止まりとなりましたが、強豪校相手にも五分に渡り合えたことがさらなる自信につながりました。

「高3のとき、監督に『プロに行かないのか』って聞かれたんです。驚きました、尊敬している監督でしたし。目指すところがはっきりわかった気がしました」。

こうして大学進学後は、プロという目標に向かい、熱心に練習を続けます。実力者ぞろいのチームメイトとともに2部リーグから1部リーグへの昇格、1部リーグ準優勝とチームは躍進します。ここ



ろが、大学最後のシーズンを前にけがに襲われ、ピッチの外で前期を終えてしまうことに。「辛かったですね。それでも自分を信じてなんとか乗り越えました」。

J1の強さを痛感している2010シーズン。厳しいときだからこそ少しでもチームに貢献したい。

後期に入ってようやく試合に出られるようになったころ、ベルマーレから声がかかって…」。そして、12月の全日本大学選手権（インカレ）で優勝をつかみ取り、翌2008年1月、「湘南ベルマーレ・背番号30島村毅」の誕生に花を添えました。

アウエーだけど僕にはホーム

プロ選手となった島村選手は、未経験のポジションにも挑戦し、昨年からティフエンダー（主に守備を行う選手）に変更。そしてチームは昨年J1に昇格しました。

「J1のレベルの高さを感じています。今後は自分の特徴である高さや球際の強さをもっと出したいですね」。

休日には越谷へ帰り、小学生とサッカーをしたり、元荒川の土手をよく走るといふ島村選手から、市民の皆さんへのメッセージです。「先日、埼玉スタジアムでの試合に、越谷PCと越谷FCの子が大勢見に来てくれて、本当にうれしかったです。越谷の皆さん、埼玉で試合があるときはぜひ見に来てください。チームにとってはアウエー（相手の本拠地）でも、僕にとってここはホームですから」。



湘南ベルマーレDF（ティフエンダー）

しまむら 島村

つよし 毅さん

中学時代の挫折、けがに悩まされた大学時代、プロ入り後のポジションの変更などにもあきらめることなくチャレンジし続ける島村毅選手。チームの地元平塚はもとより、故郷の越谷を大切にするJリーガーに練習後のクラブハウスでお話を伺いました。